

平成30年度 労働災害防止論文 金賞

職場の高齢化に伴う労働災害防止対策

株式会社キタデン 深瀬 嘉貴

現在、私の職場は設備維持管理の業務を行っています。20代の社員もいますが現場の平均年齢は46才を超えています。さらに60才以上の社員と高齢化が進んでいます。

平成29年度の資料になりますが、厚生労働省の業種別、年齢別労働災害発生状況によると清掃等の業種については災害総数約5,900に対して60才以上の労働災害は約2,500と40%以上、全業種でも60才以上の労働災害は全体の4割になります。

設備管理業、清掃業の高齢者による労働災害は増加していると言えるでしょう。

なぜ高齢者の労働災害は多いのでしょうかそれは、十人中十人が感じるであろう、若い頃には簡単にこなしていたことが難しくなってしまう、肉体の衰えに精神がついていかず怪我をしてしまうということなのです。

私も40才を過ぎ、若い頃には起きなかった怪我をしたことがあります。

何年も通い続けて慣れているはずの階段でつまずき手摺りを掴もうとしましたが掴むことができず転倒し怪我をしてしまったのです。若いころには階段の段差に足を取られてしまうことなど無く、もしバランスを崩したとしてもすぐに手摺りを掴んでいたはずなのです。

そして更に問題なのが高齢者の労働災害は大怪我に繋がりやすいということです。

転倒したときには受け身が取れず骨折してしまう、1mほどの高さからの飛び降りでも骨折してしまうなど若いころには起きなかった事故が起きてしまうのです。

では高齢者の労働災害は仕方のないものなのでしょうか、防ぐことができないものなのでしょうか、私は作業環境の整備で防ぐことができると考えます。

安全に作業できる環境を考え対策をしていく

ことです。

そして作業環境の整備とは一度やれば終わりというものではありません、同じ建物の中でも設備の更新、経年劣化による状況の変化、さらには管理している人間側の変化もあります。同じ建物の管理を10年、20年と続けていけば40才の作業員も50才、60才になります。その変化にいち早く対応、改善していかなければいけないのです。

私の職場の例をあげて説明したいと思います。

低くなっているダクトに衝突する事故が発生しました。頭上注意の看板を設置して更にダクト自体にも反射テープなどを貼付け目立つようにしました。ここまでやれば大丈夫と考えがちですが、これでも事故は起きてしまいました。事故が起きた際に「注意喚起がしてあったのに事故を起こすなんて作業員の注意不足だ」と言ってしまうのは簡単ですがそれは大きな間違いです。注意喚起していたのにもかかわらずなぜ事故は起きたのか、そこを考え改善しなければなりません。今回の場合には注意看板の位置は適正なのか、室内の明るさは作業環境として適正なのかなどを考え改善する。さらには注意喚起だけではなく緩衝材などを設置し衝突しないように注意することはもちろん、もし衝突しても事故にならないような対策を施しました。そうした改善していくことによってそこでの事故を無くすことに成功しました。

つまり高年齢化が進む職場の安全に必要なことは加齢による心身の能力低下を自覚すること、そして職場の作業環境の改善を常に意識しながら仕事に向き合っていくことです。

そしてこれは若い作業員も同様に考えなければなりません。なぜならすべての人間に必ず老いは訪れるのですから。

平成30年度 労働災害防止論文 銀賞

事故防止の取り組みについて

北海道クリーン・システム株式会社 枡久保 渉

私が所属している資源リサイクルセンターでは、廃棄物を再資源化することを主な仕事とし、安全第一で日々仕事に邁進しております。当センターには3つの工場があり、それぞれに様々な再資源化する機械があります。どの機械も一つ作業手順を間違えただけでも命の危険に関わるものばかりです。安全に作業を行うためにはどうしたらいいか、危険を察知し取り除くためにはどうすればいいか、という課題等を解決していかなければなりません。

課題等を発見し、解決していくためにはどうすべきか。一人が工場内を巡回し、くまなく探したとして、課題等が全て発見されるわけではありません。さらに、一人では解決しきれない課題等も多くあると思います。事故防止を図るためには、様々な視点と考えで問題を発見し、解決していく必要があります。

私たちの工場では一人で作業をする事はなく、必ず複数人のチームで作業します。一緒に作業する社員の視点と考えを吸い上げる事が出来れば、課題等の発見と解決が迅速に行われ、より安全に作業出来ると考えています。

その考えを基に、私たちが今年度の新たな取り組みとして、「作業責任者ミーティング」を行っています。作業責任者とは、現在5名おり、主な業務としてはチームの責任者として作業計画の立案から運用、安全作業指示を行うことです。従来からの課題として、各作業責任者が発見した課題等の情報共有不足による解決の遅延がありました。そう感じていた時に上司が、作業責任者同士でミーティングを行ってはどうか、という提案があり、それから月に1度ミーティングを行うようにしました。作業責任者ミーティングでは、各作業責任者が、各々の視点で工場内の課題等を提起し、上司を含めて7名で解決する為に打合せを行います。個人が考える課題等を共有化することで、課題に優先順位をつけ、一つ一つ課題に向き合い、様々な視点による解決策を迅速に講じる事が可能となりました。実

際に提起された課題等をまとめてみると、各々の考えている内容に共通点が多い事に気がつきました。例えば、夏期の繁忙期へ向けての各工場の人員支援体制についてや今年度から本格稼働した一軸破碎機と自動圧縮梱包機の安全対策とルールの見直しなどは、作業責任者の多数が考えていた課題でした。夏期の繁忙期は取扱量が増加する他、気温が高くなる影響で、作業効率が低下します。そのため、工場間での作業状況の情報交換を頻繁に行い、翌日の作業を見据えた人員の支援体制を最適化する必要があります。また、作業責任者においては、臨機応変な指示やスタッフの意識の統一などが求められ、繁忙期を迎える前のミーティングで方向性を明確にすることが出来ました。また、一軸破碎機と自動圧縮梱包機については、試運転を含めて2ヶ月が経過した時に、実作業を行った各作業責任者が危険と感じた作業や、ルールの見直しなどを話し合い、資材の設置場所や点検足場の転落防止、機械点検時の誤操作防止など、対策が必要な課題が提起されました。提起された課題を解決する為に、役割を分担し、工場内の整理整頓、掲示物の作成、ルールの周知などの改善策を直ちに行いました。課題を一人で抱えるだけでなく、共有化する事で、迅速な解決へ導くことが出来ました。事故を防ぎ、安全に作業を行う為には、働いているスタッフの意見の吸い上げが重要であると再認識することが出来ました。今後も、スタッフの意見を吸い上げ、実行していくとともに、安全第一で作業を行っていきます。

日々、事故の芽はどこにでもあります。その芽を摘み取り、事故を未然に防ぐことはスタッフと一緒に力を合わせることで成し遂げられます。私が率先してスタッフ達の視点と考えをまとめ、より安全で、より効率良く働ける職場づくりに貢献できる存在となれるよう、成長を続けていきたいと思っています。

平成30年度 労働災害防止論文 銅賞

Tコメットの仕事と事故防止の取り組み

北海道クリーン・システム株式会社 島 巻 日向子

札幌駅に隣接する大型商業施設、JRタワーで働く「Tコメット」をご存知でしょうか。以前は、トイレ巡回清掃を主たる「マーメイド」という名称で業務を行っていました。しかし、観光客の増加、またJRタワーが進化していくにつれ、施設内でお困りのお客様が増えていきました。そこで「お困りのお客様のサポート」を目的として業務が見直され、平成26年4月に「歩くインフォメーション」としてTコメットが誕生しました。Tコメットは、JRタワーのTとほうき星の英語であるコメットを合わせて名付けられました。大勢のお客様が来館されるJRタワーを、iのインフォメーションマークのついた黄色いダストパン(ちりとり)とブルーム(ホウキ)を持ち、館内の美観を維持しながら、お困りのお客様がいないか周りに気を配り巡回しています。私達は多くのお客様とすれ違う機会がある為、常に労働災害と隣り合わせの環境で働いています。そのような環境だからこそ、お客様の安全を第一に考えなければなりません。私が日頃、特に気をつけている点は3つあります。

1つ目は、ダストクロス掛けです。これは、長さの調節が出来るT字のクロス棒に埃を取るためのクロスを付けたフロア掃除用の道具です。(以降、クロスと表現) 私達の業務内容には、日に数回、館内をクロス掛けする業務が含まれています。クロス棒(柄の部分)は、縦に長く(私が使用する際に130cm)、床に接している部分は幅が広い為(63cm)、取り扱いに気を付けなければなりません。特に角を曲がる時やテナントショップの出入口では、店舗ごとにお客様の出入りがないか慎重に進みます。十分に確認して進んでいても、お客様が死角から現れる事もあり、このような危険を避ける為にも、曲がり角は大きく周る等、周囲の状況を注意深く見ながらお客様優先を心掛けて作業をしています。

2つ目は、ダストパンの取り扱いです。館内を歩く際に手に持ち歩いているダストパンです

が、埃等を掃き入れている為、お客様と接触させてしまった場合は、不快な気持ちにさせてしまいます。そのような事があってはいけません。セール中や連休期間等の繁忙期は、館内のお客様の通行量がより増します。その際は接触を避ける為、ダストパンを自分の前に持ち、「いらっしゃいませ」のお声掛けも、通常以上に掛けながら巡回します。繁忙期のお声掛けは、自分の存在を知らせる注意喚起の意味も含んでいます。

3つ目は、お客様へのご案内です。私達は、1日約50組のお客様へご案内をしています。お客様からの問いに対して適切にお答えできなければ、ご案内係としての仕事を全うできず、また、この人に聞かなければよかったと思われる可能性があります。誤った情報を伝えない為にも、新店舗や退店情報、館内及び市内のイベント情報を詰所に掲示することで情報の共有化を図り、各自常に確認しています。自分の知識で足りない場合は、携帯電話で仲間や詰所に情報を求める事もできます。私達は、ご案内したお客様が迷わず目的地に辿り着き、お探しの商品を見つける為の手助けを使命としています。快適に館内をご利用して頂く為には、知識や笑顔、お客様に寄り添える気持ちが必要です。背筋を曲げて暗い表情でゴミを掃くよりも、私は来館されるお客様を笑顔で迎えることを大事にしています。お客様から「笑顔が素敵」とお褒めの言葉を頂くと、とても嬉しく前向きな気持ちになります。

私は、このようなTコメットの仕事が大好きで、誇りを持って日々働いています。仕事を続けていく為にも、気を緩めず周りからの注意喚起にも耳を傾け、仲間同士で危険箇所の情報を共有し、これからもお客様の安全を第一に守っていきます。仲間と今まで築いてきた、お客様やオーナー様からの信頼を守る為に、今後も「安全かつ笑顔で魅せる清掃」を心掛けていきます。

平成30年度 労働災害防止論文 佳作

私の労働災害防止に対する考え方

札幌施設管理株式会社 佐藤 弘章

労働災害を防止するために、まず最初に行なうべきではないことは何だろうか？ よく言われるのは、労働安全衛生マネジメントシステムの活用により職場に潜む災害発生リスクの洗い出しを行い、さらにリスクアセスメントにより災害の程度と頻度を見積もり、その結果を評価するとともに対応策を検討するという流れでしょうか。

私もこの考え方、手順の通りだと考えていました。ですが、今回の論文作成にあたり、もう一度労働災害防止を掘り下げて考えている時に、これらの検討以前に重要なことがあることに気が付きました。それは「労働災害と安全について、とことん自分の頭で考える」というものです。

過去に、労働安全、災害防止のために会社の諸先輩方が経験に基づいた議論を積み重ね整理して出来た数々の安全対策は、とても有用かつ実践的なものであります。それらを覚えて実践することで大半の労働災害防止が可能になることでしょうか。しかし、私達が作業を行う現場は、時代とともに環境が少しずつ変わっている部分もありますし、危険となる因子とその組み合わせは、複雑になっていくことが多いのではないのでしょうか。一例を挙げるならば、10年前にはスマホはこれほど普及していませんでした。今では、スマホを携帯することが当たり前になったことで、メールやSNSに注意がいきがちになるあまり周囲に対する危険察知能力が低下しているように感じてなりません。

このような現実の労働環境の変化や機器の進化と言った従前とは違う状況の中で自分と職場の仲間の安全を確保するためには、現状の作業に潜む危険な部分は何かを徹底的に考えること

が大切でしょう。次にその危険を取り除くための対策をイメージし、現実的なものに具体化する作業が必要となります。いずれにしても同じ作業を行う全員が、それぞれ自分の頭で考えた注意点や対策案を出し合うことで、より広い視野から有効な安全策を見つけることが出来ると思います。

ここで、事例を挙げたいと思います。現在、私が勤務している職場は、主にX線撮影により配管内部の劣化状況を調査解析し、余寿命を診断する業務を行っています。建物配管の大半は隠蔽されているため、建物内のせまいスペースで作業することが多く縦横の配管に頭をぶついたり足下の配管に踏く危険があります。さらには、重いX線照射装置を使用するため、機器の落下による怪我也考えなければなりません。

このため、先日、X線照射装置を高所に設置する際に、堅牢かつ安定して固定できる器具を作業従事者全員で考えて製作しました。出来映えはなかなかのもので、早速、調査現場に持参し安全に撮影するのに役に立ちました。また撮影後すぐに安全性の向上を目指し、さらなる改善点の話に花が咲きました。このように、労働災害防止と実際の業務で使用する器具の改善の両方を同時に考えることが出来るのが、私の職場の素晴らしい点だと思います。

最後に、よく言われることですが、労働災害が発生すると本人はもとより、その家族の人生に影響を与えるに留まらず、勤務先の会社にも同僚の皆さんにもご迷惑をお掛けすることになります。

私は、今後とも、自分だけでなく周囲の仲間とともに労働災害防止に向けたアイデアを考えながら取り組んでいきたいと思っています。

平成30年度 労働災害防止論文 佳作

通勤災害で思う事

ホクビサービス株式会社 大橋 玲子

通勤災害とは、いつ何時、誰しもが遭遇することだと思います。

それは、自動車通勤、徒歩通勤、自転車通勤、公共の交通機関を利用しての通勤、様々な通勤方法がありますが、どの通勤方法でも常に災害と背中合わせだと思います。

では、常に背中合わせの通勤から身を守る為には、どの様な行動を取るべきでしょうか。

それは、時間に余裕を持った行動ではないでしょうか。

朝、通勤時によく見かけるのが、ほぼ信号無視の車や無理な追い越しをする車です。

黄色になっているのに急に加速して信号を通過したり、まるでサーキットにいるかの様に追い越しをしたりしています。

そんな車を見るたびに、こちらもキケンを感じます。

朝、急いでいるのは判ります。

それならば、もう少し早く行動を取ればいいだけです。

ただ、キケンな運転をする車だけではありません。

先日、朝の通勤途中、信号が赤なのに小走りで渡っている歩行者がいました。

当然、青信号側の車はその信号を横切ります。歩行者は、車を睨み付けていましたが、車が悪いのではなく、歩行者が悪いのです。

時間が無いから、信号を無視して命を失くしてしまいかねない行動を取るなんてナンセンスな話です。

時間に余裕が無いから、社会のルールを平気で無視するのはおかしくないでしょうか。

朝、家を出た時から仕事です。

そして、これから1日の仕事に取り掛かると言うのに、余裕の無い行動、命がけの通勤では、

おかしいと思います

私は、公共の交通機関、バスで通勤をしていますが、常に早め早めの行動、時間に余裕を持った行動を心掛けています。

そうすると、慌てることなく、走って転んでケガをしたり、無理に信号を渡ってキケンな目に合うこともありません。

また、早めの行動で、バスが遅れても間に合う様に行動していますので、遅刻するかも、と言うストレスに悩まされる事はありません。

それは、バス通勤に限らず、地下鉄や電車通勤でも同じ事だと思います。

強引に駆け込み乗車をして挟まれる事もなく、安心、安全に通勤出来るはずで。

それは、朝の出勤時に限らず、退社時も同じです。

1日の仕事を終え、早く家に帰りたいのは判りますが、やはり、慌てて帰宅を急ぐと災害のもとです。

私も仕事を終え、夕食の支度など家の事を考えると急いで帰宅したいのですが、急いでしまうと、何でもないところで転んでしまったり、自転車とぶつかりそうになったりします。

急いでも、何の得になりません。

やはり、朝、家を出てから帰宅するまでが1日の仕事ですから、仕事同様慎重に行動が大切です。

時間の余裕は心の余裕です。

一人、一人が、ほんの5分早く行動するだけで、心に余裕が出来、逆に相手を思いやる気持ちを持ち、無理な運転や無理な乗車、無理な歩行をせず、通勤出来るのではないのでしょうか。

私は、自分自身の心掛けとして、ギリギリの時間で行動せず、常に5分前行動を心掛け、気持ちよく仕事に取り組みたいと思っています。

平成30年度 労働災害防止標語 入賞者

金賞

気配り、目配り、思いやり、心のゆとりで安全作業

(株)ベリージャパン 佐藤 努

銀賞

あいさつで 絆つながる チームの輪 日本クリーン北海道(株) 佐藤 淳

決めたこと 守る勇気と続ける努力 みんなで築こう安全職場

日本クリーン北海道(株) 齊藤 裕子

銅賞

ひと手間を 惜しむ作業が 事故を呼ぶ 札幌施設管理(株) 蔭川 雄二

あせってる 今があなたの 赤信号

東京美装北海道(株)北見支店 小室 博美

一つずつ 出来る事から確実に 自ら改善 高まる意識

(株)ベルックス 稲垣 奈央子

佳作

挨拶は 人と人とを繋ぐ糸 チームワークで災害防止

協和総合管理(株) 日下 智明

明日仕事 早寝早起き 健康第一

中央ビルメンテナンス(株) 西名 政晴

あせるな！騒ぐな！バタつくな！ゆとり持って行動しよう

(株)ベリージャパン 最上 こずえ

あと少し 先が見えても急ぎません ゆとりで築く ゼロ災害

北海道クリーン開発(株) 伊藤 利雄

危ないぞ 言える勇気と 聞く心 注意しあえる大事な仲間

東京美装北海道(株)室蘭出張所 小山 勇

安全は ひとりひとりが責任者 みんなの力で無災害

(株)クリーン開発 加藤 玉枝

安全は基本動作の繰り返し しっかり守って ゼロ災害

札幌施設管理(株) 高田 盛男

安全に近道抜け道妥協なし みんなで声掛けゼロ災害

協和総合管理(株) 亀田 美香

いい汗も ちょっとの油断で冷や汗に

(株)東洋実業 星 一夫

いつもの行動 いつもの場所 事故はいつでも潜んでいる

北海道クリーン・システム(株) 橋本 貴明

改善しても 改ざんするな 安全ルールは 守るもの	協和総合管理(株)	鈴木 静 夫
危険箇所 進んで改善 安全職場	(株)トーショウビルサービス	成 田 靖 浩
キンチョウは やはり仕事の 必需品	東京美装北海道(株)札幌支店	中 谷 聞 吾
健康は 安全管理の 第一歩	北海道クリーン・システム(株)	鎌 田 豊 子
これくらい 問題ないさが 大問題	(株)トーショウビルサービス	近 江 剛 一
さっき感じたそのヒヤリ みんなで共有ゼロ災害	東京美装北海道(株)北見支店	小山田 和 子
事故防止、一人ひとりが責任者	テルウェル東日本(株)	小 野 淳 子
自分には関係ないなと無関心 それも一つの事故となる	(株)ベルックス	相 馬 恵 美
初心忘れず基本作業 守ろう我が身と 仲間の安全	日本クリーン北海道(株)	辻 田 裕 一
心配ない そういう あなたが心配だ	ホクビサービス(株)	小 松 一 男
“たぶん” “きっと” が事故の元 必ず確認 事故防げ	北海道クリーン・システム(株)	千 葉 晴 美
トラブルは慣れと油断と気のゆるみ 再度確認 安全作業	北海道クリーン・システム(株)	大 高 聖 央
夏バテで 注意散漫事故のもと 体調管理でゼロ災害	(株)ベルックス	板 垣 光 利
プロとして 自分の仕事を振り返り 不備あれば 直す心の 余裕持て	協和総合管理(株)	渡 邊 直 子
前を見て スマホじゃなくて 周り見て	(株)東洋実業	石 橋 清 美
まず確認 チームワークと安全意識 基本を守ってゼロ災職場	北海道クリーン開発(株)	佐々木 智
無理せず無視せず油断せず 初心忘れず安全運転	北海道クリーン・システム(株)	新 田 智 之
見るなスマホ 見るのは まず確認	(株)トーショウビルサービス	刀 禰 孝 之
目線は広く細やかに ぼんやり作業は事故の元	北海道クリーン開発(株)	坂 井 博 幸
待ってるね！ 家族の願いは 笑顔で帰宅	協和総合管理(株)	白 澤 希
油断禁物 気を抜かず 明日も元気に 安全行動	(株)クリーン開発	藤 井 陽 子
我先にと 思う前に 譲り合い	協和総合管理(株)	垣 内 武 男